

AZABU ALPINE CLUB

ALUMNI NEWSLETTER

麻布学園山岳部 OB 会会報第九号 - 2008 年 6 月 10 日 - 発行者 AAC OB 会事務局

会員の皆さん、お元気にお過ごしのことと拝察します。ご協力のお陰で、この会報も年 1 回の発行が定着してきました。では、OB 会総会による新体制発足のニュースからお知らせします。

総会開催される



山岳部のホームページで既報の通り、去る 5 月 10 日に麻布学園にて総会が開催されました。2007 年度の活動報告、一般会計報告、山荘会計報告、監査報告が承認され、また、役員人事が大きく変わりました。永年にわたってご苦労いた

いた近藤隆治理事、三島秀介会長、宮崎専輔理事長が退任され、以下のメンバーによる OB 会の新体制が始動しました。

【会長】 武藤光盛 (S42)

【理事】 鮫島員允 (S38)、溝口洋三 (S38)、武藤光盛 (S42)、宮坂太郎 (S42)、鈴木順二 (S46)、藤田信一 (S49)、藤森隆 (S52)、小澤徹 (S59)

【監査役】 三島秀介 (S33)、矢部博道 (S44)

また、5 月 19 日には理事会が開かれ、委員などが以下のように決まりました。

【事務局長】 宮坂太郎

【会計】 小澤徹

【山荘委員】 溝口洋三 (委員長)、宮崎専輔、藤田信一、高坂元頭

【ホームページ委員】 鈴木順二、齋藤昌毅、高野信久、岩城達之助、高坂元頭、梅村裕

【サポート委員】 藤森隆 (委員長)、宮崎専輔、森美文、鈴木順二、齋藤昌毅、高坂元頭、梅村裕、佐藤彦彦、藤森俊、高橋智也

会長・理事長からのご挨拶



爺が岳から下りて

三島会長、宮崎理事長の後を引き継ぐことになりました武藤です。当会の良き伝統である“古参も若手も一体で運営”を伝承し、“若返り”を図るために少しでもお役にたてればと決心しました。新体制は会長、理事長の一本化が図られたと同時に、副理事長、事務局長が配置されています。5 月 19 日に新理事会が開催され、活動方針の具体化に向けて動き出しました。活動を活発にしていきたいためには、より多くの会員の皆様に色々な形で参加して頂くことが必要だと思えます。麻布学園山岳部の立派なホームページが運

営され、現役、OB 会の情報が発信されています。嬉しいことに現役部員は増加傾向にあります。どうか機会を見つけて OB 会行事に気軽に参加して頂ければとお願いたします。最後になりますが、改めて今回退任なさった、近藤理事、三島会長、宮崎理事長に心から感謝申し上げ、今後とも変わらぬご指導をお願いし、ご挨拶とします。

副理事長からのご挨拶



サロマ湖にて

副理事長のお役目を仰せつかりました鮫島です。今年度の重点目標として下記三点を掲げました。

1. OB 会会計および山荘運営会計の健全化を図る
2. 若手会員中心に軸移動
3. 現役部活動のサポート活動の充実

どれも昔から目指していたことを羅列しただけですが、それだけにどれも簡単に解決できる事ではないことを承知の上で目標とし、一歩でも近づく為の努力をいたします。

一方では、役員各位のご協力は勿論会員皆様のご協力があつて初めて達成できる事と考えます。ご理解、ご指導ならびにご協力を切にお願いいたします。

登録サポーター募集のお願い

今年度の重点活動方針の一つとして「現役部活動のサポート活動の充実」を挙げました。この実践の為に、登録サポーターを募集いたします。皆様のお力をぜひお借りしたくお願いいたします。

登録サポーターの活動内容

- ・ 現役部活動の援助
- ・ 合宿に同行し必要により技術的援助もしくは指導
- ・ 東京での部活動に対し必要により技術的援助もしくは指導

などを、時間的に都合が付く場合に支援して頂く方を登録する制度です。(なお、同行の為の交通費は実費を OB 会より負担させていただきます。)

参加して頂ける方のご質問はメールください。

理事・サポート委員長 藤森 隆



2007 年夏合宿・南アルプス

平成 19 年度一般会計・山小屋会計報告

	収入の部		支出の部	
一般会計	会費収入	188,000	山荘税金	80,790
	忘年会余剰	2,085	通信連絡費	69,963
	ペナント	9,000	慶弔費	15,750
	寄付金	20,000	その他 (名簿訂正、ペナント等)	141,175
	受取利息	406	雑費	3,406
	合計	219,491		311,084
	当期収支			-91,593
	前期繰越			577,794
	当期末繰越			486,201
山荘会計	山荘使用料		通信代	1,290
	会員大人	78,000	ガス代	32,490
	会員小人	3,000	電気代	101,123
	非会員大人	165,000	水道代	42,000
	非会員小人	3,200	灯油代	27,387
	薪代	6,000	貸取り代	6,000
	雑収入	21,400		
	合計	276,600		210,290
	当期収支			66,310
	前期繰越			-35,036
	当期末繰越			31,274

岳人 7 月号に麻布山岳部が登場

おなじみの登山雑誌「岳人」の 7 月号 (2008 年 6 月 15 日発売) に、麻布学園山岳部の紹介記事が掲載されます。「高校山岳部の仲間たち」という連載記事の第五回として登場するもので、現リーダーの新井洵太郎君、および顧問の増子先生のテキストや合宿などの写真によって構成されています。ぜひ一読下さい。



会員往来

訃報

高林英之さん (昭和 33 年卒) が 2007 年 10 月に亡くなられました。心よりご冥福をお祈りいたします。[写真は 1957 年、五龍・遠見尾根にて撮影]



AZABU ALPINE CLUB

ALUMNI NEWSLETTER

麻布学園山岳部 OB 会報第九号 - 2008 年 6 月 10 日 - 発行者 AAC OB 会事務局

会員近況

今回は昭和 25 年、35 年、45 年、55 年、平成 2 年、12 年卒業の会員にお願いしたところ、次の 8 名の方から寄せられました。

■ 吉田 実さん（昭和 25 年卒）



昭和 24 年 5 月末に仙丈、甲斐駒への山行に参加したのが、生涯の登山の原点となりました。戸台より北沢峠への登りは、死に物狂いでした。峠に着いた時は疲れのため、動くことができないほどバテバテでした。峠から長衛小舎までの長さは身にこたえました。一日雨天のため休み、2 日目に仙丈へ登った時、無風快晴で山の楽しさを満喫しました。駒へ登った時も雄大な北岳の姿に圧倒され、山の素晴らしさにひたりました。この山行以来今日まで、山々を歩き登ったものです。同行者：笠原（リーダー：左下）、内田（右下）、小川（右上）。

■ 小川法章さん（昭和 25 年卒）



このところ物忘れがひどく、用事があって二階に上がったからそこで立ちんぼ。何しに来たんだっけ。階下に戻り定位置に座ったら、ああそうだとする。やれやれ二階家は住みにくい、というわけでもないが、三月末、転居しました。新築マンションでセキュリティにうるさく、鍵を手放せない。万事よしとは難しいものです。健康とボケ防止をかねて詩吟と囲碁に熱中しています。そしてできるだけ多くの人と接触するよう心がけています。なのに政府は我が意に反して後期高齢者医療制度とやら言って、どうしても年寄り扱いしたいらしく困ったものです。小生ももういつ何があってもおかしくない年になりましたが、大変元気です。

■ 加藤和彦さん（昭和 35 年卒）



加藤和彦です。その昔はドンキヤと呼ばれていました。さて近況ですが、OB 会に顔を出さず、行事にも顔をださず、まったくしまつの悪い名ばかりの OB ですみません。頭は当然多少のボケはあるのですが、体はいたって健康・丈夫です。実は、この年をして毎日働いています。主に JR バスの運転手ですが、明いている日はトラックの運転手となり、月に 1 度位大阪方面へ長距離走行という、全くばか丸出しの生活をしています。山といえば、両親の墓が富士山麓にあるので、毎年富士山に登り、頂上の 1 cm 程の小石を二つひろって墓に置くというのが唯一山とのつながりでしょうか。いつかは、顔を出したいとおもっています。

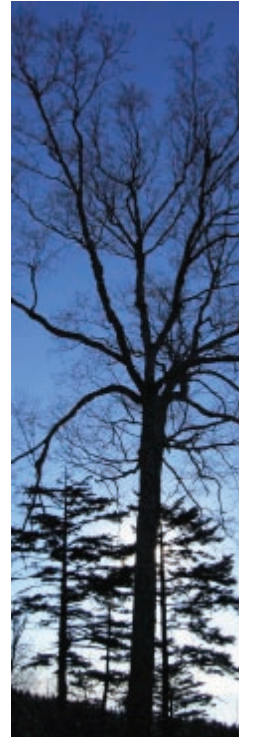
■ 宮崎専輔さん（昭和 35 年卒）



思い出してみると、ホントに思いがけなく、4 年前三島先輩から「理事をやれ！」のご命令（笑）を受け、光栄な反面、不安と伝統ある山岳部の理事長など、私などが・・・の重い、思いがありました。しかし私の暴走しがちな（今でも老年暴走族だけど・・・）青春を救ってくれた AAC 山岳部には恩返しをしたい、の思いがズットあったのでお引き受けしました。この間、節目の 60 周年記念のボゴダ峰トレッキング・記念パーティー等を三島会長を初め皆さんの暖かい協力で無事成功裏に終了することができました。ホントに感謝！感謝！です。今後は武藤・鮫島体制の下、老人から 10 代の現役までが、麻布らしく自由でのびのびとした山好きの一大集団（！）を未来永劫に（大げさ！）まで続けて行って欲しいのが 70 近くになった老人の願いです。どうぞ新体制の皆さんは理事の仕事は義務と考えないで大いに楽しんでください。これも一つの山登りですね。苦労が多くて大変だけど楽しい！今後は、山荘委員の一人として溝口委員長の下、多少はお役に立ちたいと考えていますので、どうぞよろしく。

■ 横田重雄さん（昭和 35 年卒）

麻布出てから 48 年が経った。相変わらず山を歩いている。年を食って馬力が無くなり、バランスも悪くなったが、登っていても、体は軽くなった気がするし、動けなくなる程のバテ方も感じず、下りも、麻布下山部 OB の名を辱めず駆け下って、周りの爺さん婆さん連中を驚かしている。装備も食糧も年々改良され、軽量化され誠に楽である。高校時代にこんなであつたら良かったのと思うことも屢である。とは言え、今も山を駆け巡るのは、親にもらった体と山岳部諸先輩の扱きのお陰である。HP の現役の山行記録を見ると、廃部の危機にあった頃に比べ、最近は人数も多く、行く山のレベルも高くなって本当に嬉しい。野本・増子両先生のご努力に頭が下がる。



■ 大熊忠之さん（昭和 35 年卒）

大熊忠之です。広島私大で国際政治学を教えています。着任して 19 年目を迎えます。今年度をもって定年退職となり、来春には関東に戻る予定にしています。広島修道大学という学校に勤務していますが、浅野藩校を母体にした旧制中学から発展した大学です。修道という名前は、漢籍の中庸に由来するとのことですが、キリスト教系の学校とよく間違われます。キリスト教で修道という用語は使われませんが、修道院の連想でしょう。進学校の学校法人がつくった大学は、高校からは軽くみられるところもありますが、東京の武蔵大学に似ています。まずは、ご挨拶まで。

■ 上領國資さん（昭和 45 年卒）

真の観光とは通常見る事のない神の世界の光を観る事を示す様ですが、高校時代の山行の帰り、中央線が高尾を過ぎ当時住んでいた国立へ近づくに連れて、自分の周囲の世界の光がどんどん暗くなり国立駅に着いた時完全な灰色の世界になっていた現実を今でもはっきりと覚えています。当時登校拒否の先駆けであった私ですが、山岳部の部室にだけは通い続ける事が出来たのは、やはりそこに山からの光の通り道があったのであり、今思えば、ややもすると暗い灰色な日常に閉塞されそうになる自分に対して、山（神）からの光を一杯に与え、刻々の魂の蘇生を促して下さった、未来の神からの尊いハクライであったと、縁を頂いた皆さんの光の山と、山岳部との縁に心より深い感謝を感じている次第です。

■ 岩城達之助さん（昭和 55 年卒）

もうすっかり山に登ることがなくなってしまっていますが、AAC とは、たまに HP のお手伝いをさせてもらったり、八ヶ岳の山荘に泊めさせてもらったりして細かい絆を保っております。一昨年、気の早いリタイアを決め込んで、営んでおりましたガラス製品製造の会社を人に譲り仕事を無くしたため、たっぷり時間ができたものですから、昨年には嫁と畳を新しくし、さてまた山ごもりでもするかと思立ったところが案外と持病の腰痛が重症で重荷を背負えないことがわかり、やはり山に登る機会を逸しております。他人の分まで荷物を背負ってくれる方がおられれば、ご一緒させて頂きたいと考えております。



事務局連絡先：

藤田信一

〒108-0072 東京都港区白金 6-4-12 ■

宮崎専輔さん、増子寛さん、小田薫さん、小川法章さん、加藤和彦さん、細島進さん、高坂元顕さんの写真を使用しました（本人提供分を除く。）